

JCES ニュース

Japan Comparative Education Society

NO.10

第 42 回大会開催によせて

大会準備委員長 二 宮 皓

日本比較教育学会第 42 回大会は、2006 年 6 月 24 日（土）、25 日（日）、広島大学を会場として開催させていただくことになりました。広島での開催は、第 31 回大会（1995 年）以来、11 年ぶりとなります。

大会は、自由研究発表を中心に、公開シンポジウム、課題研究、ラウンドテーブルと、例年通りの構成となっておりますが、自由研究発表では英語による部会を新たに設けております。

この度の公開シンポジウムは、「諸外国における教育と職業」と題して、近年わが国において深刻な社会問題となっている若年失業などの問題を取り上げます。わが国を含め、諸外国における現状とその対策などを比較的観点から検討したいと考えております。また、課題研究は、「教育における公私協働」「各国の大学における比較教育学の授業の在り方について」の二つのテーマを取り上げます。とくに後者に関しては、学会初期より数回にわたり議論されてきたテーマであり、これまで学会員による精力的な調査・研究が行われてきました。また、北米比較・国際教育学会（CIES）においても、ロヨラ大学のエプSTEIN（Erwin H. Epstein）を中心とする研究グループによって、CIES の会員を対象とした調査・研究が行われています。世界の大学改革・教師教育改革の動向を踏まえた上で、大学における比較教育学の授業について、学会員による諸外国での教育経験の報告を含め、議論を行いたいと考えております。

広島大学は、広島市内から電車で 30 分ほどの東広島市にあります。同市は、豊かな自然に囲まれた国際学術研究都市として発展を遂げながらも、古くから酒の都として、栄えてきました。この革新と伝統が共生する環境が、比較教育学研究に更なる飛躍をもたらすことを期待しております。皆様の多数のご参加を準備委員会一同、心よりお待ちしております。

第 42 回大会のご案内

2006 年度の第 42 回大会は、広島大学で以下の要領で開催されることになりました。多数の会員の皆様のご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

日 程：2006 年 6 月 24 日（土）～25 日（日）

会 場：広島大学 教育学部

連絡先：大会準備委員長 二宮 皓

〒739-8524

東広島市鏡山 1-1-1

広島大学教育学部日本比較教育学会

第 42 回大会準備委員会事務局



北京師範大学 国際・比較教育研究所

北京師範大学 高 益民

北京師範大学の国際・比較教育研究所（以下、研究所）は、中国で最も早い時期に創設され、その規模と影響において最大の比較教育学の研究・教育機関です。研究所の前身は1962年に設立された北京師範大学教育学部の外国教育研究室で、その後1979年に外国教育研究所と改称され、1995年に現在の名称になりました。

研究所は、1981年に修士学位、1983年に博士学位の授与権を得ました。1988年に国家レベルの重点研究分野に認証されて以来、研究所は中国の教育研究分野の中で、唯一教育委員会（現在の教育部）による重点的援助を受ける研究機構として、また教育科学分野における「ポスト・ドクトラル・ステーション」や「211」プロジェクトの重点研究分野として、さらに教育部高等教育人文・社会・科学領域の重点研究拠点として、大きく発展してきており、「第10五カ年計画期間（2001年 - 2005年）」には、再度、国家的重点研究分野としての評価を受けています。

現在、研究所には、教授10名、副教授8名の研究・教育スタッフが在籍していますが、その中には有名な比較教育学者の顧明遠教授が含まれています。顧教授は、世界比較教育学会のCo-Presidentを務めたことがあり、現在は中国教育学会会長の要職にあります。また、比較高等教育研究が専門の王英杰教授は中国教育国際交流協会会長や、中国比較教育学会副会長を務めています。

研究所の『比較教育』、『比較高等教育』、『戦後ソ連の教育研究』、『比較教育緒論』、『アジア発展途上国の義務教育』等の学術専門書は、中国の学界に大きな影響を与えています。2000年から2005年までに研究所によって出版された学術書は40点あり、発表された論文は400篇以上に上ります。また、研究所は、『比較教育研究』という月刊の学術雑誌を中心となって編集・刊行しており、これは中国比較教育学会の紀要として認められています。

研究所は、また、中国で最大の国際教育学・比較教育学分野における専門家の養成拠点でもあるために大学院教育の規模はますます拡大しています。現在、比較教育学の分野以外にも、高等教育、教育経済と管理、成人教育の専門分野で大学院生を募集しています。2001年から2005年には、修士課程院が165名、博士後期課程院生が65名在籍しました。

現在、研究所は、国際的な文化と教育の交流・協力を積極的に取り組んでいます。イギリス、アメリカ、フランス、ドイツ、日本、ロシア、カナダ等の高等教育部門（大学）や研究機構、また、ユネスコやユニセフなどの国際的機構、さらに世界比較教育学会などと、人員と情報資料の交換などにおいて広範な協働を行っています。2001年から2005年において、外国への訪問研究は74度実施され、当研究所への来訪総人数は310名に達しました。また、研究所は4名の留学生を派遣するとともに、17名の留学生を受け入れています。学術的会議の開催については、これまで10回の国際学術会議と5回の国内学術会議を主催・共催していますが、とりわけ中国と世界の比較教育学者の交流を深めるのに大きな役割を果たした「世界比較教育フォーラム」を2回開催したことは、特筆に値します。

〔注〕「ポスト・ドクトラル・ステーション」とは原文では「博士后流动站」。国内や海外で博士号を取得した若手研究者（40歳以下）に対して、中国政府が、学術研究の一層の深化・促進を目的として、学問的水準の高い大学の重点研究分野や研究機構を選抜し、優れた研究者の育成を図るために設立した研究拠点のこと。採用されたポスト・ドクター段階の研究者の研究期間は通常2年（最大3年）である。（学会事務局）

お知らせ

図書紹介

マーク・ブレイ編著：馬越徹・大塚豊監訳

『比較教育学 - 伝統・挑戦・新しいパラダイムを求めて』

東信堂、2005年12月、361頁、3,800円

本書は、世界比較教育学(WCCES)の現会長であり香港大学教授マーク・ブレイ氏の編著(Mark Bray ed., *Comparative Education, continuing traditions, new challenges, and new paradigms*, Springer, 2003)を全訳したものである。収録されている論文のほとんどは、2001年7月、韓国において開催された世界比較教育学会第11回大会時に発表された報告が基になっており、21世紀初頭における世界の比較教育学研究者の問題関心と研究水準の到達点が示されているといえる。

編者は、自ら執筆した序章において世界比較教育学会の過去・現在・未来を鳥瞰した上で、3部構成(I.概念と方法、II.政治的諸力と比較教育学、III.比較の観点から見た文化)により本書を編集している。本書の特色の第一は、グローバル化が急速に進む21世紀における比較教育学の概念や方法の変化を提示したこと、第二は世紀の転換を前後して生じた国家・社会システム崩壊・再構築と比較教育学研究のあり方について省察を加えたこと、第三は「文化」の概念を導入することにより近代西洋知を主軸としてきた20世紀的比較教育学を相対化しようとする視点の提示である。もう一つ注目すべき特徴は、アジア・太平洋地域に関する研究や欧米とアジアとの比較研究を積極的に取り上げている点である。香港を拠点に世界の比較教育学研究をリードするマーク・ブレイ氏ならではの編集であるといえよう。一人でも多くの本学会員が本書を手にとり下さることを期待し、参考までに本書の目次を掲げておく。

(桜美林大学大学院教授：馬越徹)



- | | |
|------|------------------------------------|
| 序 | 世界比較教育学会の伝統、変化、役割 |
| 第1章 | グローバル化した世界における比較・国際教育学の未来 |
| 第2章 | 収奪・認知・受容 - 高等教育における先住民の知恵と知識 |
| 第3章 | ミクロ世界の比較教育学 - 香港の国際学校からみた方法論的考察 |
| 第4章 | 変化の10年 - 中欧・東欧の教育政策 |
| 第5章 | シベリアおよびロシア極東地域における分権化と教育改革 |
| 第6章 | 生涯教育と成人教育 - ロシアと西欧の出会い |
| 第7章 | 米国・英国・日本におけるグローバル教育へのアプローチ |
| 第8章 | 中国とインドにおける初等学校教育 |
| 第9章 | 韓国人とアメリカ白人児童の表現スキルに見られる文化と学年による差異 |
| 第10章 | アメリカ社会における理想的な子ども像 |
| 第11章 | 社会の階層構造と集団的連帯 - 中国的文脈における労働と職業の意味 |
| 第12章 | 教育の近代化によって子どもたちが失ったもの - 西欧と東アジアの比較 |

お知らせ

叙勲のお知らせ

平成 17 年度秋の叙勲において、本学会第 5 代会長を務められました小林哲也先生が「瑞宝中綬章」を受章されました。

謹んでお知らせいたしますとともに、心よりお祝い申し上げます。

新入会員

(2005 年 9 月～2006 年 2 月、入会申込み順)

- 所澤 保孝 (関東学院大学)
青木 亜矢 (東京工業大学大学院生)
陳 兆鵬 (北海道教育大学大学院生)
福島 真司 (鳥取大学アドミッションセンター)
展 偉静 (東京学芸大学大学院生)
村井 典子 (早稲田大学大学院生)
羽野 繁行 (福岡県立門司商業高等学校校長)
百合田真樹人 (ミシガン州立大学大学院生)
伊藤亜希子 (九州大学大学院生)
竹内 愛 (ミネソタ大学大学院生)
John Moravec (ミネソタ大学大学院生)
Tastanbekova Kuanysh (筑波大学大学院生)
森島 久幸 (京都大学大学院生)
宮前奈央美 (九州大学大学院生)
橋本 憲幸 (筑波大学大学院生)
楊 嵐 (筑波大学大学院生)
西村 幹子 (神戸大学*)
時 代 (東京学芸大学大学院生)
河野明日香 (九州大学大学院生)
飯田 直弘 (九州大学大学院生)
姜 英敏 (中国北京師範大学国際比較教育研究所)
木下 江美 (一橋大学大学院生)

(2006 年 2 月 19 日現在の会員数 857 名)

* 御所属に誤りがございました。お詫びして訂正いたします。

紀要編集委員会より

新たな装いの紀要 32 号がすでに会員諸氏のお手許に届いていることと思います。年 2 回発行決定後の第 1 号を予定通り 1 月中に刊行できました。胸をなで下ろす間もなく、すでに昨年末から今年 6 月の大会時発行予定の第 33 号の編集に着手しています。

第 32 号は、制度変更から自由投稿締め切りま

での期間が短かったために、投稿数の多寡が大いに気になりましたが、合計 24 篇の自由投稿がありました。残念なのは、そのうち 5 篇を投稿要領違反により不受理とせざるを得なかったことです。投稿要領の更なる周知徹底の必要性を感じました。しかし、第 33 号については、いずれも投稿要領に沿った相当数の論文が集まり、要領が定着しつつあることを窺わせます。また、査読結果について、本学会ではこれまで再審査の対象となる論文に限って修正のための参考意見を付けてきました。しかし、他の論文の執筆者からも査読結果を知りたいとの声があり、慣行見直しの余地もあるように思われます。

紀要の内容構成に関連して、前号では大会報告に一定のスペースを割きました。次号では「義務教育をめぐる意思決定と費用負担」をテーマに特集を組むことになっています。新制度が軌道に乗るには今暫くの時が必要ですが、紀要の充実に向けて、ご協力とご期待を願います。(紀要編集委員長・大塚豊)

紀要投稿要領が本年 2 月に改定されました。
詳細は同封の別添資料 1 をご参照下さい。尚、改定は紀要第 34 号より適用されますので、投稿締切日等にご注意下さい。 <学会事務局>

会費納入のお願い

年会費未納の方は納入にご協力下さい。通常会員 10,000 円、学生会員 6,000 円です。本年度より紀要年 2 回発行となりますが、本学会では当該年度の会費納入を確認後、学会紀要『比較教育学研究』をお送りしています。3 年を超えて会費未納の方は会員資格を失います。

〔郵便振替口座〕 00820 -6 -16161

日本比較教育学会事務局

〔銀行口座〕福岡銀行箱崎支店

普通 2102191

日本比較教育学会 一般会計

日本比較教育学会事務局

〒812 -8581 福岡市東区箱崎6 -19 -1

九州大学大学院人間環境学研究院教育学部門

TEL&FAX (092) 642 - 8426

E-mail jces-edu@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jces/index.html>